

# こんなところに

## 市民憲章

1. 富士山のように美しく  
自然を愛し  
きれいな環境をつくります

### 人知れず環境美化を20年



杉山さかさん

きれいな環境の場所に出会うと、だれでもいい気持ちになります。

厚原西区の杉山さかさん(88歳)は、自宅近くの山の神様を、毎朝掃除すること20年。夏なら5時ごろ、冬なら6時半ごろ、人知れず環境の美化を行っています。

「暑い時期は空き缶、これからは落ち葉が気になりますね。ほうきで掃くと、とてもすがすがしい気分になり、一日が気持ちよく過ごせますよ。私の健康法かね」と、ほうき片手に話す姿は、米寿とは思えない若々しさです。



左から洗一さん、菜穂子さん、ゆかりさん、洋子さん

河西さんのお宅は、日軽技研にお勤めの洗一さん(四十四歳)、奥さんの洋子さん(三十八歳)、長女で富士南中一年のゆかりさん、次女で富士第二小五年の菜穂子さんの四人家族です。

#### イギリスのどちらに

「日本との比較になっちゃいますが、街の景観や色彩、騒音などに細かな配慮がされています。コンサートなどをだれでも楽しんでおり、文化レベルの差は大きいですね。思いやりの心や譲り合いの精神はぜひ見習いたいものです」

#### 富士市と比較すると...

「生徒によって一人一人カリキュラムの違う授業がされます。教科書もなければ宿題もありません。子供たちは小さいときから自分の意志を尊重されていますので、自分の意志で勉強をします。塾などもちろんなく、勉強も強制されません」

#### 学校はどうでしたか

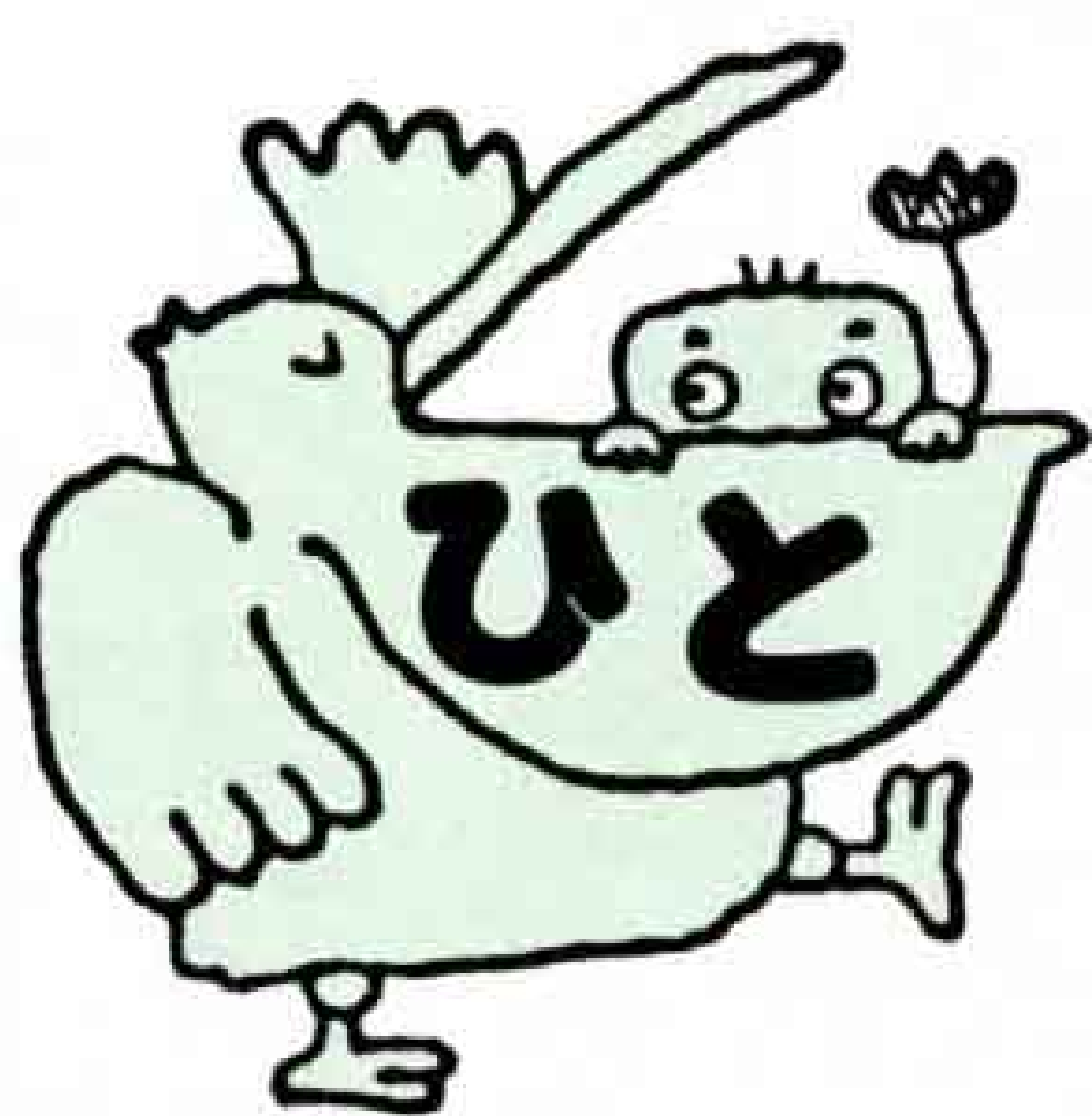
「身体障害者や妊婦など社会的弱者に対する思いやりが行き届き、心豊かな生活ができました。スパーの専用レジや歩道など施設面はもちろん、だれもが自然に手を差し伸べてくれます。私たちも随分助けてもらいました」

「初めまして!! 市民一年生です!!」

### 見習いたい

### 思いやりの心や譲り合いの精神。

今回は、昨年十二月に二年間の滞在を終え、イギリスから帰国した河西洗一さん(水戸島上南)のお宅におじゃまして、興味深い話をいろいろお聞きしました。



**富** 篠原さんは今回、静岡市で開かれた全国しいたけ大会に、間伐材で作った「はがき」と足の裏の

**木** への愛着。「けがは、しょっちゅうだね。この指も短くなっちゃったし。素人が十年も続けてきたのは、まあ、木への愛着って言うのかなあ」

「百個つくって、九十個はだめだったね。ひび割れたり節が抜けてきたりで、使い物にはならなかった」

**ぬ** 「今度は、給食器をつくってみたい。ヒノキの器は、軽し冷めにくいし、何より木のぬくもりが伝わってきます。ただ、きちっと重ならないことや、水に浮いてしまうのが難点。しかし、夢を夢で終わらせないのが篠原さんの信条。新たな情熱を燃やしています。」

「木は正直。どんなに丁寧につくっても、木のくせを見抜けなかったらだめになってしまいます。今では、木目も節も美しい模様となって生きています。くもり伝える器。」

つぼを押える「健康棒」を出品しました。木材センターで、富士ヒノキの間伐材の多くが切り捨てられているのを見たのが、十年前。何とか利用できないかと、湯飲みをつくり始めました。

富士ヒノキの間伐材加工にかける情熱  
夢で終わらぬ「手のわざ」

しの はら まなぶ  
**篠原 学さん**

(入山瀬・54歳)

